

## くすりというメタフォー

1977年にスーザン・ソントグが「隠喩としての病い」を書いてから、もうすぐ半世紀が経過しようとしています。スーザンも乳がんを克服してから、ついには白血病で亡くなりました。

メタフォーは人間の心を支配し続けています。私たちには「知らないこと」が多すぎるからです。「知らないこと」という大海に沈んだままです、などとメタフォーを使って書いてみました。

SARS-CoV2というウイルスについても、そのワクチンについても、知らないこと、知らされていないことだらけです。でも1つ私に見えるのは、新型コロナのpandemicは、インフルエンザとは全然違うということです。インフルエンザというメタフォーはあり得ないと思います。季節性インフルエンザ重症化の大量発生で、病院のICUが満杯となり、呼吸器もECMOもナースも医者も足りないという医療崩壊が先進国のほとんどで発生したなどということはありませんでした。

サリドマイドの経過を詳しくお話しいただき大変勉強になりました。レンツ報告の1961年11月18日から、1962年9月13日の（不十分な）回収までの10ヶ月間、日本国内では、厚生省や製薬会社や医療者の間では一体どんなドラマが進行していたので

しょう。レントツやKelseyのような人格者が日本にはいなかったのでしょうか？その間に胎内でサリドマイドに暴露された方の悔しさは想像を絶するものです。私も全く同じ思いです。

そもそも、催奇形性や胎児毒性のデータ無しに、なぜドイツや日本では認可が下りたのでしょうか？今日の近代的regulatory scienceの世界からは想像もできません。

AIDS裁判を経て、また多くの苦い経験を通り抜けて、日米欧3極のInternational Council for Harmonization (ICH)の10年余の努力、そして何よりも薬害オンブズパーソンを始めとする市民の粘り強い権利運動により、大きな進歩があったと私は思います。確かにHPVワクチンの被害など問題は沢山のこっちはいても、阻止できた薬害や救われた例もたくさんあると思います。

サリドマイドは現在安全かつ有効な使用が可能になりました。それは例えば、半田宏先生などがセレブロンの基質特異性変化の機序を綺麗に解明されたおかげであり、多発性骨髄腫の患者さんの多くが、iMid（サリドマイド系の薬）治療の恩恵を受けています。サリドマイドは「悪魔の薬」というメタファーから解放してあげていいではないでしょうか。つまり問題は情報（とその普及）の欠如で、悪魔は人間の集団の中にいたのです。

私が本日先生に伺いたかった本音の質問は、先生が最後の方で「ぜひコロナワクチンから国民を守りたい」という意味のことをおっしゃったのに関連します。私はHPVワクチン反対運動には絶対に参加します。なぜ反対するかも説明もできます。

でもコロナワクチンに関しては情報の無い私にはそれができません。先生はどのような方法で、どのような根拠を使って、コロナワクチンから、またコロナ禍から国民を守ろうとお考えなのかを教えてください。

本日は本当にありがとうございました。

北山ユリ